

ニカメイガ情報第2号（水稻）

令和7年8月27日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

弥富市に設置の予察灯で成虫の誘殺数が急増しました 発生が多い地域では速やかに防除しましょう

1 発生状況

弥富市に設置した予察灯では、本虫（成虫）の誘殺数が7月中旬頃から多い状況が続いており、8月中旬にさらに急増しました（図4）。また、直近1か月の総誘殺数は1,652頭（平年86頭、前年313頭）で、過去10年間と比較して最も多い状況です。

他の地域（長久手市、大口町、西尾市、豊川市）に設置した予察灯では、本虫の誘殺数は今のところ平年並の状況ですが、今後の発生状況に注意しましょう。

2 防除対策

ニカメイガは発蛾最盛期（成虫発生ピーク）の数日後～7日後の薬剤散布（粒剤は発蛾最盛期）が効果的です。

特に、発生が多い地域における「あいちのかおりSBL」等の遅い作型のは場では、パダンSG水溶剤（収穫21日前まで）やディアナSC（収穫7日前まで）などで速やかに防除しましょう。

3 ニカメイガについて（参考）

越冬世代成虫は田植え後のイネに産卵し、ふ化した第一世代幼虫がイネの茎内に侵入し食害します。被害にあった茎は葉鞘褐変を起こし、食害量が多い場合は枯死し、心枯れを生じさせます。

次の第一世代成虫もイネに産卵し、ふ化した第二世代幼虫がイネを食害します。出穂期以降の被害では、白穂を発生させ収量に影響します（図1～3）。



図1 白穂被害



図2 ニカメイガ成虫



図3 幼虫が茎内を食害する

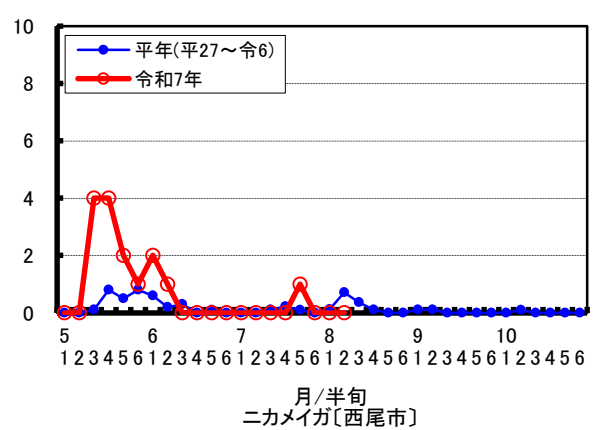
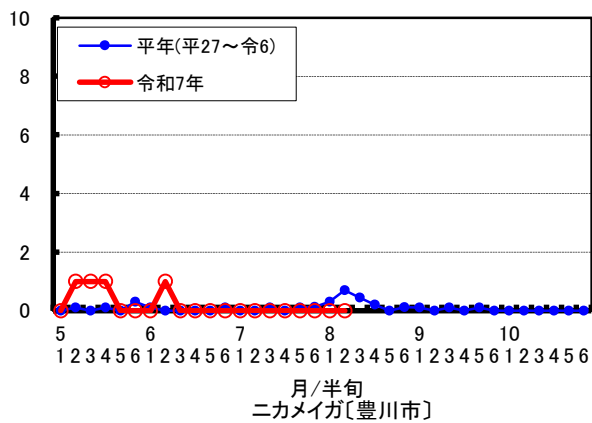
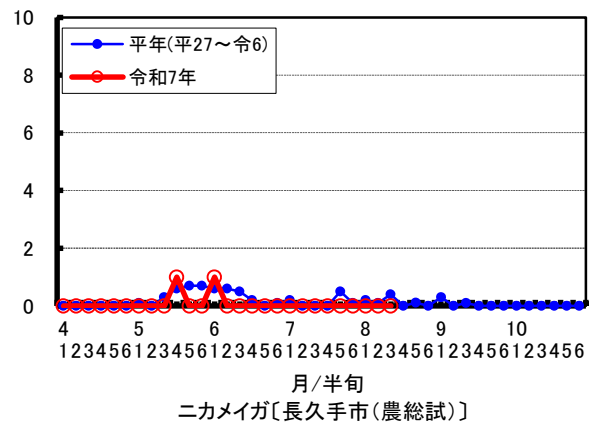
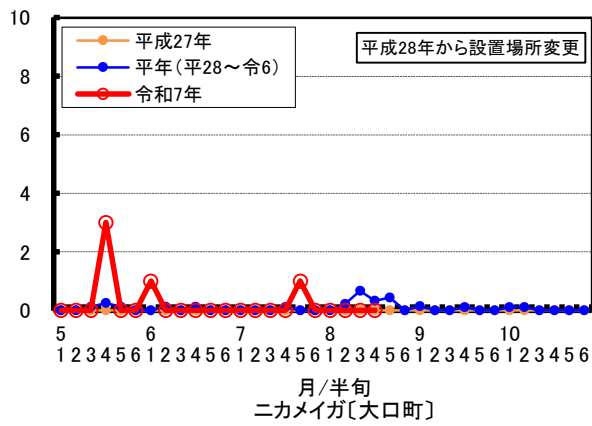
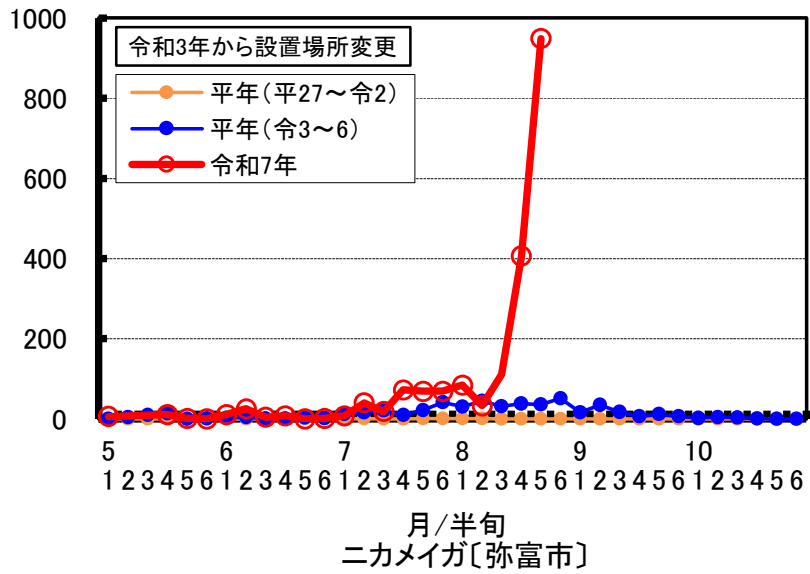


図4 予察灯におけるニカメイガ（成虫）の誘殺状況（単位：頭）